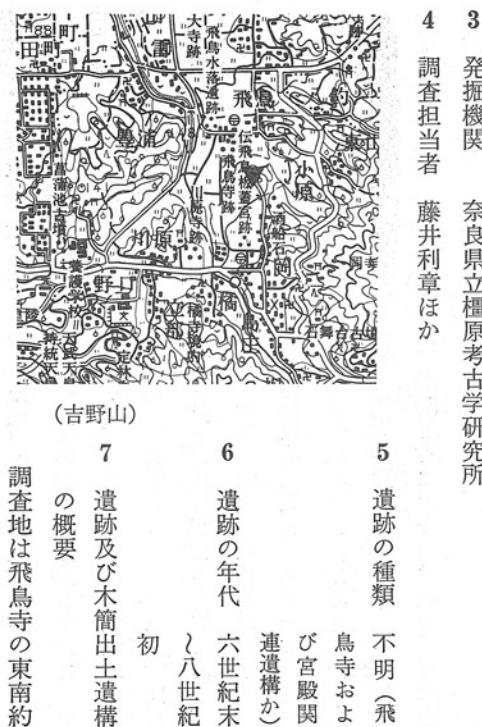
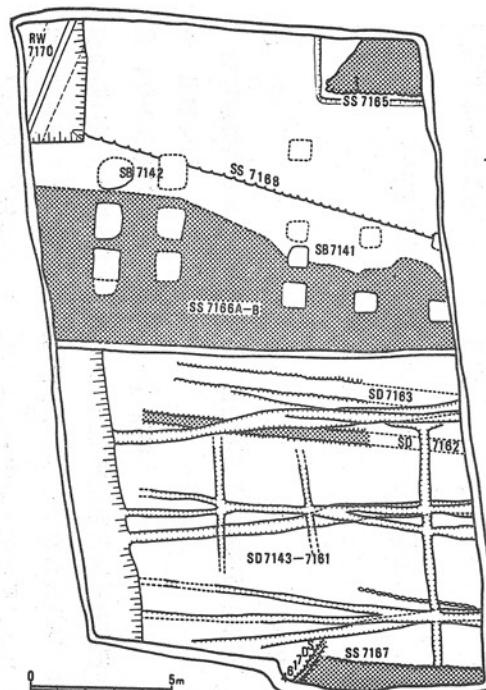


1977年以前出土の木簡



## 一九七七年以前出土の木簡（一三）

一五〇mのところで、飛鳥寺から岡の天理教教会に至る県道に近接する。「評」と記す木簡二点が出土した。発掘調査の結果、掘立柱建物、石溝、敷石遺構、石垣遺構、木製樋管などを検出したが、遺構の状況は複雑である。上層から掘立柱建物、中層では石溝、中層



第28次発掘調査検出遺構配置図

と下層の間に木製桶管、下層からは敷石遺構・石垣遺構が検出された。最下層からは飛鳥寺形式の素弁丸瓦の破片が出土している。また出土した土師器や須恵器の年代から、これらの遺構は六世紀末から八世紀初頭ごろまでと判断された。木製桶管（RW七一七〇）は石垣遺構の一部を破壊して構築されており、N17度Eの方方位にある。

上下二枚合せで両肩部を面取りしていて、断面は六角形を呈する。内部は円形に削り抜かれていて、内径は約二五cm。桶管一本の長さは約五・五m、最大幅四五cmで、長さ約八mほどが確認された。木筒(1)は木製桶管の上方から、(2)は掘立柱建物(SB七一四二)の西南隅の柱の掘形内から出土した。(1)(2)ともに、今回、改めて再調査を行ない、釈文を確定した。

## 8 木筒の釈文・内容

- (1) • □ □ □ 久米評鴨マ×
- (2) • □田末呂 不破評秦黒×

(148)×(13)×7 081

第三号～第六号  
『木筒研究』バックナンバーのご案内  
(第一、二号は品切。第三号は残部僅少)  
第七号～第一二号 頒価 三五〇〇円  
(第一、二号は品切。第三号は残部僅少)

送料 各号とも一冊につき四〇〇円  
五冊以上 一一〇〇円  
一一〇冊以上 三〇〇〇円

### 申込方法

郵便振替(京都〇一一五二七 木筒学会)で号数と冊数を明記の上お申込下さい。公費でお求めの場合は事前にご相談下さい。

『和名抄』によれば、久米郡は伯耆・美作・伊予国にみえ、不破郡は美濃国にのみみえる。大宝二年の御野戸籍によれば、加毛郡半布里に秦人・秦人部・不破勝族、山方郡三井田里や本竇郡栗栖太里に秦人部の分布することがみえている。

### 9 関係文献

奈良県教育委員会『飛鳥京跡—昭和四六年度発掘調査概報』(一九七一年)  
(和田 萌)